

Dance Dance Dance

中国杭州 第19回アジア競技大会
ブレイキン 金・銀・銅メダル

ダンススポーツグランプリ in 静岡・富山・仙台

German Open Championships 2023

西部ブロックGD・PDダンススポーツ選手権



<http://www.jdsf.or.jp>



公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

理事新任のご挨拶

長田 新子

(一般社団法人渋谷未来デザイン)
理事・事務局長



この度、日本ダンススポーツ連盟の理事に就任することとなりました長田新子と申します。まず初めに、このような重要な役職を託されることの重みと責任を深く受け止め、微力ながらダンススポーツの発展と振興に貢献できるように尽力してまいります所存です。

私自身、欧米の外資系通信企業で営業、マーケティング、広報を経験し、2007年にレッドブル・ジャパンに入社しました。コミュニケーション統括責任者及びマーケティング本部長(CMO)として10年半、ブランド・製品を日本市場に浸透させることに注力しながら、様々なスポーツシーンやアスリートとプロジェクトを立ち上げ、ブランドとスポーツが切磋琢磨しながら共創し、成長していくことを実感しました。レッドブル時代の10年間でブレイキンも含めありとあらゆるスポーツ分野との接点を持たせていただいたことに本当に感謝しています。

2018年から、渋谷区にてオープンイノベーションを促進する団体として設立された(一社)渋谷未来デザイン理事・事務局長として、都市や地域の多様な可能性をデザインするプロジェクトを構想・推進しています。当初から大規模なスタジアムがない土地だからこそこの渋谷らしいスポーツを、街中に浸透させたいと思い、次世代を中心としたスポーツ振興や、地域とスポーツのあり方、公共空間の利活用といったスポーツを通じたプレイグラウンドづくりにも取り組んでいます。

さて、私とダンスの出会いは、高校時代です。小さい頃から体を動かすことが好きだった自分ですが、小学校から高校まで、水泳、体操、アーティスティックスイミングなどに多くの時間を費やしてきました。そんな中、高校時代にたまたまジャズダンスに触れる機会があり、興味を覚え、友人と原宿まで習いに行き始めたのがスタートです。趣味として大学でも続けながらも、実は、社交ダンスを少しだけ習ったこともあります。その後、留学からの仕事、子育てなどでダンスを継続することができなくなり、すっかり個人でやることから離れてしまったことは残念ですが、レッドブルに入社して“ブレイキン”

(当時はブレイクダンス)と出合い再び衝撃を受けました。そこからの自分は“する”から“シーンを支える側”になろうと決めたことを今も覚えています。2010年の「Red Bull BC One」という世界大会を代々木体育館で開催した際に、チケットが即完、世界中のトップアスリートが集結し、若い人の熱狂に溢れた会場を目の当たりにしたときは本当に感動しました。スポーツ・ダンスの力でこんなに人の心と行動を動かすことができる瞬間があるのだと。レッドブルへの参加と同時にダンスというシーンに関わって15年余り経った今も、その時生まれた縁や仲間との繋がりと絆はとても強く、この日本ダンススポーツ連盟への扉を開いてくれたと思っています。レッドブル時代に自分が関わったスポーツシーンへの感謝も込めて「アスリート×ブランド 感動と興奮を分かち合うスポーツシーンの作り方」(宣伝会議)として一冊の書籍にまとめましたので、お時間があれば是非お手にとっていただけたらと思っています。当時、誰も振り向かなかったカルチャーをコミュニティごとサポートし、一歩踏み込んで関わり続けてきたからこそ、レッドブル・ブランドは成長してきたことやシーンとの出来事など、事例も交えて紹介しています。

繰り返しになりますが、現在、私は渋谷区でのスポーツ推進委員活動やストリートスポーツ振興およびマナー向上の啓蒙を目的としたプロジェクト「Next Generations」の主催などを行なっています。6年目となる大会として今年の9月の大会では全国から過去最大級のU-15が代々木公園に集まり、数千名の観客が場を盛り上げました。その中から、世界に羽ばたく人材も生まれるでしょうし、その場に偶然居合わせた人でダンスをやりたいと思った人も多くいるはずです。

ダンススポーツは、技術の向上だけでなく、人間形成や健康増進、多様性の促進と国際交流など多岐にわたる効果が期待されるスポーツです。これらの価値をさらに高め、多くの人々にダンススポーツの魅力を伝える活動を推進していきたいと考えています。この分野では若輩者ではありますが、皆様方にご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



長田理事の著書「アスリート×ブランド」(宣伝会議刊)



今年9月、代々木公園で行なわれたプロジェクト「Next Generations」

2023年 西部ブロックGD・PD ダンススポーツ選手権

9月3日(日)／三井ショッピングパークららぽーと堺 1階
(Fansta XROSS Stadium)

会場は昨年11月、大阪府堺市美原区の区役所前にグランドオープンしたリージョナル型大ショッピングパーク「ららぽーと堺」。食や買い物だけでなく、堺市や南河内地域、奈良県中部の交流結節拠点などの機能を持った施設です。その中心のスタジアムコート『Fansta XROSS Stadium (ファンスタクロススタジアム)』(約2,500㎡)は、スポーツやエンタメイベントの観戦などが楽しめる施設で、その中央には国内商業施設の屋内型としては最大級の542インチのメインビジョンが設けられ、イベントを見ながら食事を楽しむこともできます。

開会式と
会場全景

この施設を利用し、「2023年西部ブロックGD・PDダンススポーツ選手権」が開催されました。谷口主嘉大会会長(京都府DS連盟会長)は、「JDSF西部ブロックのGD部門とPD部門が協力して運営する初の競技会。一般の買物客にもダンススポーツを紹介できる大会です。マナーを守って、楽しみながらダンススポーツの魅力を披露してほしい」と挨拶しました。

谷口小夜子さんの名司会で大会は進行。天道貞一大阪府DS連盟会長や野田尚児和歌山県DS連盟会長、JDSF-PDの水田晃司氏等の献身的なご尽力で、二つのイベントを含め盛大に開催され19時半には全て終了しました。



谷口大会会長の挨拶、後列は審判員の皆さん



ステマネと司会を務める
谷口小夜子夫人と小松愛さん



選手宣誓 水田晃司PD西部
副委員長のジュニア水田悠
斗君と大塚千榮さん



天道貞一会長の孫天道晴人(9歳)
天道さくら(5歳)組
フレイジュブナイルラテン 第5位

PDオープン

北海道出身の久保田弓椰選手は10年以上前からA級戦優勝の太田歩生選手(北海道)やパートナーの松本京佳さん始めジュニアダンススポーツクラブ大阪を指導。現在も徳野夏海さんと北海道から毎月1週間は来阪してコーチをしている子ども達やご両親等の大声援を受け、スタンダード・ラテン共に完勝でした。



前田雅仁・宮崎 梢組
(まえたダンス倶楽部)

St
第3位



喜多田芳起・細田千代組
(ザ・ゴールデンパレス大阪)

St
準優勝



久保田弓椰・徳野夏海組
(TEAM YUMIYA北海道)

St
優勝
PDオープン
La優勝



スタンダード表彰式



ラテン表彰式



上原伸之・家入由佳組
(DoA Studio)

La
準優勝



高辻博希・岡田優美組
(タカツジダンススタジオ)

La
第3位

JDSF A級戦



St
優勝
A級戦
La優勝

太田歩生・松本京佳 組
(TEAM YUMIYA北海道/札幌国際大学)



St
準優勝

田中高輝・竜口七彩 組
(京都Dアスリートクラブ)



St
第3位

谷中賀翔・宮本園美 組
(奈良県)



スタンダード表彰式



ラテン表彰式



La
第3位

中島増大・岡田愛彩 組 (TEAM YUMIYA)



La
準優勝

岡内唯一・岡内暖羽 組
(ジュニアダンス
スポーツクラブ大阪)

全日本シニアⅣ選手権



St
優勝

松村健樹・松村栄子 組 (奈良県)



St
準優勝

土屋寛敏・土屋和美 組
(フラワートップ)



ラテン表彰式



La
優勝

濱田 稯・濱田のり子 組
(シノダスポーツダンスクラブ)



La
準優勝

清水久道・
野山英子 組
(東京都)



スタンダード表彰式

PDマスタークラスII スタンダード



St
優勝

平田裕一朗・
平田みか 組
(平田ダンス/
丸山ダンス針中野)



JDSF B級戦スタンダード表彰式



JDSF B級戦ラテン表彰式



JDSF C級戦スタンダード表彰式



JDSF C級戦ラテン表彰式



PDマスタークラスII スタンダード表彰式



プレジュニア ラテン表彰式

プレジュニア ラテン

La
優勝

水田悠斗・大塚千榮 組
(京都ジュニアダンススポーツ
サークル)



La
優勝

プレジュブナイル ラテン

藤田陽翔・藤田理愛 組
(大阪府)



プレジュブナイル ラテン表彰式

本日の特別イベント

フォーメーション発表



ジュニアダンススポーツクラブ大阪によるフォーメーションの発表!!
高い吹き抜けの大きなフロアーに
子供たちは緊張からリラックスへ



ちびっこに
配られた参加賞

みんなでおどろろ 社交ダンス!!

親子で参加、ひとりで参加、
社交ダンスの簡単なステップ
をちびっこダンサーみんなで
踊りました。



水田晃司PD西部ブロック副委員長の司会進行です



最後まで後片付けの皆様お疲れ様でした (GD&PD役員)

～スポーツの普及・振興のため～

公益財団法人ミズノスポーツ振興 財団から助成金新規授与

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団（会長：水野明人・ミズノ(株)社長）は、1970年9月1日に創立され、その目的は、「日本国のスポーツの振興に必要な事業を行ない、もって国民の心身の健全な発達に資すること。そして2023年度の事業計画が3月14日（火）に決定され、7月27日（木）、澤井文彦公益財団法人ミズノスポーツ振興財団事務局次長が、（公社）JDSF有明事務所を来訪し、選手強化及び競技力向上に対する助成金100万円と、ジュニア育成に対する助成金100万円が手渡されました。

2023年度は、国際オリンピック委員会（IOC）、（公財）日本スポーツ協会、（公財）日本オリンピック委員会、（公財）日本パラスポーツ協会への助成金を増額。また、福岡で行なわれる「世界水泳」など国内開催の世界選手権等への積極的な助成や、新たに（公財）日本スポーツ協会の「暴力・ハラスメント行為根絶に向けた事業」への支援のほか、注目度の高い競技を統括す

る（公社）日本カーリング協会、（一社）日本eスポーツ連合、（公社）日本ダンススポーツ連盟など新規15団体にも助成を計画。その結果、助成金総額は昨年度より約1億4千万円多い3億9百万円になりました。これにより1970年の財団創立からの助成額累計は約86億円となっています。



談笑する澤井文彦ミズノスポーツ振興財団事務局次長(左)と山田淳副会長、岸尾政弘事務局長

SHIZUOKAダンスコレクションin2023

2023年10月8日(日)／グランシップ「海」

主催：静岡県、静岡県レクリエーション協会

主管：静岡県ダンススポーツ連盟、県民スポーツ・レクリエーション祭実行委員会

今年で5回目を迎えた「SHIZUOKAダンスコレクション(通称：ダンコレ)」が、グランシップ「海」を会場に盛大に開催されました。3年前の第2回からはコロナにより出場制限もありましたが、中止することなく継続され、今回は第1回大会のように盛大で華やかなダンスコレクションとなりました。県内各地から社交ダンスはもちろん、ヒップホップ、ジャズダンス、ブレイキンなどジャンルを超えたダンサーたちが集結し、トップ選手の太田佳輝・三喜穂菜美組のデモとルンバ講習も行なわれました。



閉会の辞を述べる
水野敏明
大会実行委員長



金子和裕静岡県
ダンススポーツ
連盟会長の挨拶



フリーダンスタイム



「ダンコレ」を盛り上げた大会役員の皆さん

ジュニアフォーメーション



クッキー and クリーム【Jazz Funk】



VIBRANT【ガールズダンス】



Chronicle【HIP-HOP】



サカモトダンス学院 ビギナー&初級
【HIP-HOP】



サカモトダンス学院 初級中級&中高生
【HIP-HOP】



鈴木保利・大西友美
【ワルツ】



丸山嘉彦・島村ミチ子
【ルンバ】



光飛田妙子・夏目和夫
【ルンバ】



塚田節子・手塚慎一
【タンゴ】

デモンストレーション

フォーメーション



ミニーハート【サンバ】



ウィステリア&オアシス【チャチャチャ】



フレッシュ DC Part1【ルンバ】



スマイル・アフロII【タンゴ】



サークルオアシス【ワルツ】



カヨーハート【ラテンメドレー】



太田佳輝・三喜穂菜美



守山美子・夏目和夫
【スロー&ルンバ】



魅力的なルンバの踊り方



ワルツ



ルンバ



ジャズダンス 河原崎愛弓先生



ラテン音楽の表現 渡辺結女先生

2023ダンススポーツグランプリ in 富山

7月9日(日)／富山市総合体育館

昨年度からスタンダードとラテンともに3回ずつ計6回の開催となった「ダンススポーツグランプリ」シリーズ。7月9日には、東海北陸ブロックの富山県でスタンダード部門が盛大に挙行されました。ユースラテンやグランプリスタンダードの準決勝以降は照明も落とされて、いつもとは違うシックな雰囲気にも包まれました。注目のグランプリは小嶋・盛田組、ユースは高橋・榮岩組が制して、それぞれ歓喜のオーナーダンスを披露しました。



グランドセレモニー 入場した準決・決勝進出選手と審判団



笹山治一大会実行委員長(県DS連盟理事長)の挨拶



布村 幸彦JDSF会長の主催者挨拶



開催地・富山の藤井裕久市長が歓迎の挨拶



ヒップホップ演技発表「チームSLAT」(JELダンススポーツクラブ)

グランプリ スタンダード

優勝



小嶋 みなと・盛田 めぐみ 組
(神奈川県)

準優勝



大西 大晶・大西 咲菜 組
(ハッピー Happyクローバー)

第3位



守屋 駿・盛田 舞香 組
(神奈川県)

第6位



海老原 竜太・尾身 菜月 組
(千葉県)

第5位



熊谷 光晃・粕尾 明日香 組
(東京都)

第4位



中村エドワード漸・中村エリザベス永理 組
(ブルボンDST)

全日本選手権ユースラテン

優勝



高橋 海・榮岩 由莉那 組 (千葉県)

準優勝



今西 竜矢・今西 心葉 組
(ブルボンDST)

第3位



ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実 組
(ブルボンDST)

B級戦スタンダード表彰式



優勝



秋田 龍星・松村 舞風 組
(ハッピー Happyクローバー)

B級戦ラテン表彰式



A級戦ラテン



今泉清隆さんを偲んで (競う 学ぶ 遊ぶ) いろいろな思い出

新宿区ダンススポーツ連盟会長 宮原 教子

1987年(S62)、当時の新宿区アマチュアダンス協会主催の「社交ダンス入門講座」の募集記事を見て、カップル優先と付度して、上司の今泉さんに一緒に応募してもらいました。会場は古い体育館の会議室で、床はピータイル、更衣室は無く和式のトイレで足元に気を付けながら着替えしました。受講生は20名くらいだったと記憶しています。ブルース、ジルバ、ワルツ、タンゴ、チャチャ、そしてルンバはスクエアルンバとキューバンルンバの2種類でした。週1回2時間の12回のコース。踊ることが楽しく休まず出席しました。終了後、サークルへの入会を勧められ二人で入会しました。翌年、新宿駅近くに私共の事務所があったことから、電話連絡係を頼まれ気楽に事務局を引き受けました。

その後、縁あって日本アマチュアダンス協会(JADA)山口繁雄会長の依頼で、副業に使用していた隣の部屋をお貸しする事になり、以後35年の長きにわたりダンスに関わることになりました。

当連盟は創立時会員数200名程度でしたが、競技会(競う)、講習会(学ぶ)、ダンスパーティ(遊ぶ)の3本柱で活動しており、会員数が増加するにつれ(H12年度会員数430名)、日々の仕事と事務局を掛け持ちしながら、忙しい日々を送ることとなりました。今泉さんは好奇心旺盛、積極的で頼まれるとあまり深く考えずに引き受けてしまう(少々困る性格の)人でした。東京都DS連盟の役員だけでなく、日本ダンススポーツ連盟(JDSF)の理事・役員としても、ダンスの普及・発展のために骨身を惜しまず頑張っていたと思います。

2004年(H16)、当連盟の会長に就任、2010年(H22)には新宿区体育協会会長に就任し、区体協の組織の充実と、スポーツ環境委員として広く区民全般のスポーツ環境の改善のために行政とも協力しておりました。

35年を振り返ると様々なことが思い出されます。中でも映画「Shall we ダンス?」に、エキストラとして参加したことは一生の思い出です。近隣の各団体からエキストラを募集し、新宿区からも多くの会員が参加してくれました。映画の内容は知らされておらず、試写会で初めてストーリーを知りました。また、2011年(H23)2月26～27日、(財)福島県電源地域振興財団からの依頼で「スポーツの里ふたば社交ダンスツアーin Jヴィレッジ」を実施し、新宿区から今泉さんはじめ多数の会員が参加しました。2日目には東京電力エネルギー館を見学し「いこいの村なみえ(浪江)」で昼食、買い物を楽しんで帰京した僅か2週間後、東日本大震災により訪れた地域が甚大な被害に遭いました。2週間ずれていたら、地震と津波に襲われていたと思ひ恐ろしくなりました。

3月11日(金)は第13回東京オープンの前日で、朝から東京体育館の会場設営の手伝いで出かけており、今泉さんは、その後3日間東京体育館の事務所に泊まることになりました。震災後、区立体育館が一時避難所に指定されたり、節電により夜間利用自粛等で数カ月間連盟の活動は停止しました。

それから8年半経ち、2019年10月11日、萩生田光一文部科学大臣から「生涯スポーツ功労者」を授与され、栄えある受賞式に出席しました。

翌年、新型コロナウイルス感染症拡大により世界の動きが止まりました。緊急事態宣言が何度も発令され、外出自粛が奨励され、街から人が消えました。2020年の東京オリンピックも1年延期となり、翌年開催されるも無観客大会となりました。東京五輪開催の2021年(R3)、今泉さんは下肢の痛みを感じ、たまたま整形外科で撮ったレントゲン写真から癌が見つかり築地の国立がん研究センターで抗癌剤治療を開始しました。副作用による脱毛や食欲不振と闘いながら、いつもの明るい今泉さんのままで、体協活動もダンス活動も続けていました。去年は、癌研に定期入院するようになっていましたが、合間を縫って5月の「東京都ダンススポーツ連盟創立45周年記念祝賀会」、11月には川崎市とどろきアリーナで開催された「第42回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権」に出席しました。

今年に入り、1月の「シニア・コミュニティ交流大会TOKYO縁ジョイ」に、2月は会長を務める「一般社団法人新宿区体育協会創立60周年記念式典」と「公益社団法人日本ダンススポーツ連盟創立45周年記念式典・祝賀会」にも出席しました。

5月末、当連盟の総会出席後に体力の衰えが顕著となり、抗癌剤治療を中止し緩和ケアに移行しました。6月末、食事療養のため地元の病院に入院していましたが、新宿区体育協会の総会に家族に付き添われ車椅子で出席し、現役の体協会長として立派に議長を務めました。本当に最後の最後まで頑張った!と思います。地域のため、ダンスのために多くの功績を残したと思います。しかし私達には、どんな功績よりも、いつも明るい今泉さんの笑顔が何よりの宝物です。



8月15日、お別れの会にて



「生涯スポーツ功労者」表彰



一般社団法人新宿区体育協会「創立60周年記念式典」にて、吉住健一新宿区長と小池百合子東京都知事と



シニア・コミュニティ交流大会「TOKYO縁ジョイ」にて、小池百合子東京都知事と



喜寿を祝う

今泉清隆さんの功績・表彰

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟理事(マーケティング本部長)
東京都ダンススポーツ連盟理事長
新宿区ダンススポーツ連盟会長
新宿区体育協会会長
令和元年生涯スポーツ功労者表彰受賞

2023 ダンススポーツグランプリ in 静岡

2023年(令和5年)7月16日(日) / グランシップ・大ホール「海」

会場のグランシップは、「文化創造と交流の拠点」として、静岡県が設置する県立複合文化施設です。金子和裕静岡県DS連盟会長（JDSF常務理事、大会実行委員長）から、「グランプリ静岡が、浜松アリーナから東洋のブラックプールと言われる静岡市のグランシップ大ホールに戻り、一般の体育館とは違うダンス競技に相応しい雰囲気のできる会場です。出場選手はベストパフォーマンスで頑張ってください」と挨拶がありました。

「アートとスポーツがあふれるまち」を重点政策に掲げる難波喬司静岡市長は、「この会場に相応しい華やかなトッ

プレベルの選手が一堂に会するダンススポーツグランプリが開催されることは、スポーツの振興のみならず、静岡市の街づくりの目標である『世界に輝く静岡の実現』に寄与するものあり、大会関係者に深く敬意を表します」と歓迎の辞を述べました。

注目のグランプリラテンの決勝6組には、ユース3組・20代前半2組の若い選手が揃う中、シニアの押川・和田組が5位に入り注目を浴びました。そして優勝は大西兄妹組。全種目1位の完全優勝を果たしました。



右より金子常務理事、難波喬司静岡市長、神宮広報部相談役、溝口ジュニア育成部長



競技開始前のラジオ体操



杉山展克副実行委員長の開会宣言



優勝

全日本選手権ユース戦 スタンダード



準優勝

小林才時・小西乙愛組（長野県）



第3位

高橋海・榮石由莉那組（千葉県）



中村エドワード漸・中村エリザベス永理組（ブルボンDST）

（18歳の双子カップル）
5歳でダンスを始め、
9歳から競技会に出場
しています。ユースの
最後の年に優勝できて
嬉しいです。



ユーススタンダード表彰式

優勝



大西大晶・大西咲菜組(富山県)

グランプリ ラテン

準優勝



高橋 海・榮石由莉那組(千葉県)



グランプリファイナル進出者の晴れやかな笑顔



第3位

太田佳輝・三喜穂菜美組(長野県)



第4位

ホワイトン謙心・
ホワイトン夏奈実組
(ブルボンDST)

第5位



押川慧悟・和田知世組
(神奈川県)

第6位



原口侑弥・大西陽来里組
(富山県)

A級戦 スタンダード

優勝



柿澤夏月・小堤帆夏組
(東京都)



小林寛康・林 由佳組
(西部地区ダンススポーツクラブ)

B級戦

St優勝



鈴木伶音・渡辺華凜組
(ジュニアスリートクラブ)



中島瑠大・岡田愛彩組
(北海道)

準優勝



A級戦 スタンダード表彰式

C級戦



St優勝

境 勝幸・古見春美 組
(山梨県)

La優勝

D級戦ラテン優勝
稲村青奈・藤原歩未 組
(長野県)

D級戦



St優勝

村山忠彦・丹羽君代 組
(DCビエンナ)

シニアII A級戦



La優勝

シニアII A級戦
スタンダード優勝
松本武士・
宮西朋代 組
(京都府)

シニアIII A級戦



St優勝

岡田明義・岡田祐子 組
(長野県)

My Dream

『グランプリラテン 第5位に輝く』

押川慧悟・和田知世 組 (神奈川県)



私達はカップルを結成して、今年で10年を迎えます。押川は今年36歳、私は内緒。現在、シニアラテンの日本代表をしております。

押川は東京大学の競技ダンス部に入部して、2010年の卒部までダンスに没頭した学生生活を送り、全日本戦「冬全」ではルンバでファイナリスト(第4位)までになるものの、大学院に進み卒部後3年ほど競技から離れた生活をしていました。一方の和田は、大学の競技ダンス部に入部したものの、途中で退部。その後、踊る楽しさが忘れられず、社会人になり社会人サークルで嗜む程度に踊るという生活をしていました。それも当時、和田はメインはスタンダードのダンサーでした。

全く異なるダンスライフを歩んできた私達ですが、2013年に社会人ダンサーとしてカップルを結成しました。お互いフルタイムで仕事をしている会社員同士で、カップルでも夫婦でもありません。

和田には、家庭もあります。

なので、私達には、『練習時間の確保』が1番大きな障壁です。

しかし、お互いダンスが好き、練習が好きという共通点があり、片方が仕事等で練習が出来なくても自主的に練習をしたり、ダンスのために時間を調整するというライフスタイルで、その壁を乗り越えてきました。ただ仕事で疲れて練習がしんどいなと思う日も当然ありました。しかし、二人で作り上げるダンスだからこそ、欠かさず練習やトレーニングをしようと踏ん張れたというのがあります。

私達の目標は、シニアの世界選手権で優勝することです。

そのために、国内では若い世代と対等に戦うGD部門のグランプリのファイナリストとなり、他団体の日本インターナショナル選手権やスーパージャパンカップでもファイナリストとなり、世界一という目標に向けて一歩ずつ前進してきました。昨年はジャーマンオープン(シニア)では3位、WDSF世界選手権(シニア)で4位でした。

昨年世界に挑戦して感じたことが2つあります。まず1つ目は、シニアで世界一を取るには、国内のオープン戦で成長の速い若い選手と対等に戦い続けるレベルに自分達を引き上げる必要性があるということです。なので、今年も大分グランプリ、静岡グランプリともにファイナル5位だったことは、これから挑戦する世界選手権に向けて良い自信となりました。誰もが成し遂げてない、世界選手権(シニア)で優勝するという目標に向けて、さらにお互いの技術、表現力に磨きをかけていきたいと思っています。

2つ目は、内面、人間力がないと、ただダンスが上手くても世界では勝てないということです。私達は強化選手として若い選手と携わることが多い分、踊りだけでなく行動も若い選手の見本となれるように内面も磨いていきたいと思います。そして、私達にしか創れない世界観を表現したダンスを皆さんにお届けしていきたいです。

世界で活躍できるアスリートになれるよう精進していきますので、応援していただけると嬉しいです。

(和田知世)



日本スポーツマスターズ2023福井大会記念事業 ダンススポーツ競技大会

7月30日(日)／福井市体育館



ご来賓及び役員



右から青木長崎県会長(来年の開催県)、小形福井県会長、西行副市長、猪嶋スポーツ局長、皆川市議会議員、金子実行委員長(JDSF常務理事)、神宮広報部相談役

福井市では「生涯にわたりスポーツを楽しむことができるまち」を基本理念に定めすべての市民が、ライフステージに応じて楽しみながらスポーツに参加し、心身共に健康で活力ある生活を送ることができる環境づくりに取り組んでいます。西行茂副市長は「長野国体から正式に公開競技となるダンススポーツは素晴らしいスポーツです」とご挨拶があり、猪嶋宏記福井県交流文化スポーツ局長の代読により杉本達治福井県知事のご祝辞が披露されました。

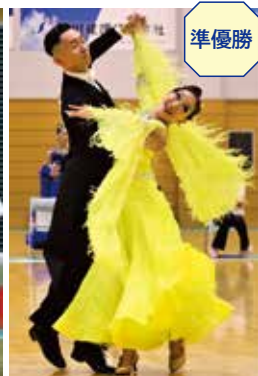
福井県ダンススポーツ連盟顧問の皆川信正市議会議員はプロとアマの選手が同じ舞台上で生涯アスリートとして日本一を競い合う貴重な大会!そして福井市の良さをアピールされました。

第3位



松林 勝・藤 めぐみ 組 (滋賀県)

準優勝



森 晃士・森 仁美 組 (三重県)

優勝



高橋 一昌・高橋 由紀子 組 (PD増玉県)

マスターズIの4連覇も嬉しいですが毎年各地で開催される大会に無事出場し続けることができるのも幸せです。私は40代後半、パートナーは50代前半、7つ違いの年上女房です(笑)。私達はダンススポーツが国民スポーツになることを応援するためにJDSFに移籍したのでその一環であるこの大会に出場することにある意味使命感を感じています。身体が続く限り全国を回りたいと思っています!今後とも応援よろしくお願いします。



第3位



藤見 昭次・藤見 美子 組 (PD福島県)

準優勝



馬淵 亮一・馬淵 邦美 組 (福井県)

優勝



森 晃士・森 仁美 組 (三重県)

マスターズI ラテン



27歳からダンスを始めました。3児の子育てにダンス、44歳と43歳のシニアの10ダンサーです。いくつになっても踊りたい!勿論、シニアVまで、まだまだこれから!!頑張ります。



マスターズII スタンダード & ラテン

優勝



松本 武士・宮西朋代 組 (京都府)

各県トップ役員も活躍



川内 博史・榎本 由紀子 組 (鹿児島県名誉最高顧問 C級&D級St優勝)



野田 尚児・大村 正子 組 (和歌山県会長)



佐合 孝史・佐合 知子 組 (愛知県会長)



須田 幸彦・足立 恵子 組 (神奈川県会長)



優勝

マスターズⅢスタンダード

徳野 一也・下河邊 衣津子 組
(福岡県)

マスターズⅢラテン



優勝

高橋 和則・高橋 京子 組
(東京都)

優勝

マスターズⅣ スタンダード



谷口 主嘉・谷口 小夜子 組 (京都府)

今年の6月で審判員を引退しました。審判員として貢献を続けるつもりでしたが、夫婦としての楽しみを優先致しました。2018年9月と11月に家内が人工股関節手術をしてから5年近く経過。ともに踊れなくなってから8年くらいのブランクで、まだまだ踊りは調整中ですが、無理のない範囲でこれからエントリー可能な競技会に少しずつ出場していきます。競技会場で選手の皆様と選手として再会した際には、どうか仲間としてよろしくお願いしたいと思います。

マスターズⅣ ラテン



優勝

杉山 典克・杉山 美子 組 (静岡県)

優勝

マスターズⅤ ラテン



友田 康晴・中村 敏子 組 (京都府)



マスターズⅤ スタンダード



優勝



丸山 一・丸山 由美子 組 (静岡県)

優勝

JDSF B級戦 スタンダード

荒木 隆雄・荒木 けい子 組
(愛知県)

JDSF B級戦 ラテン

前田 信春・松本 弓子 組
(東京都)

優勝

JDSF C級戦 スタンダード



JDSF C級戦 ラテン



JDSF D級戦 スタンダード



JDSF D級戦 ラテン





全国47都道府県

岐阜県ダンススポーツ連盟 林 伸男・民子

私たちがダンススポーツを始めて数年が過ぎた頃、愛知県の伊藤茂・千鶴組から東京の大会に参加しようと誘われました。中部の大会のみに出場している私たちには敷居が高くとても迷いましたが、もっと視野を広げ、各地で頑張っている選手のダンスを見てみたい！と考え、各地の大会に出かけるようになりました。

20年ほどが過ぎた頃には、東部の選手から誘われて海外の大会にも参加するようになりました。2013年2月ベルギーのアントワープ市で開催されたシニアⅢスタンダード世界選手権では、12組の仲間と日本選手団を結成。伊藤組と共に出場しました（海外番外編）。

海外に行くようになってからは、さらに全国の多くのダンス仲間、シニア仲間に出会うことが出来ました。伊藤組と共に海外遠征の際、日本の都道府県をどれだけ出場しているのかお互いに数えてみました。その際には両組共約半分ほどの都道府県の大会に出場していました。競技ダンス人生いつまで続けられるかを考え、これからの目標として、全国47都道府県の全ての競技会出場で踏破しようと決断いたしました。

各都道府県大会に出場の際には、多くの皆様大変お世話になりました。見知らぬ地で、役員の皆様、選手の皆様には温かいお声掛けをいただき感謝申し上げます。そして選手を迎える立場としても参考にさせていただくことも多くあり、大変勉強になりました。観光旅行にはなかなか出かけられない私たちにとっては、競技会出場をかねた各地の観光も良い思い出となりました。二人で行くことが多いのですが、時にはダンス仲間を誘ってレンタカーで乗り合わせて美術館や神社や城めぐりにも行きました。



2013年、ベルギーで開かれた「シニアⅢスタンダード世界選手権」に出場した林組



本年7月、宮崎大会で「47都道府県踏破」達成！



平安神宮



加藤神社（熊本城）

コロナ禍になり、予定していた競技会が中止となり、その後も相次いで中止。達成は難しいか!? と思う時もありましたが、何とか1県ずつ何うことが出来、今年7月30日、最後の「ダンススポーツ九州ブロック選手権in宮崎大会」に出場させていただき、全47都道府県踏破を達成することが出来ました。

各都道府県の多くの皆様との出会い、それぞれに思い出が蘇り、本当にうれしく思っています。年齢的にも限界を感じていますが、今後も身体が続く限りダンスを続けていきたいと思っています。そしてまた皆様とお会いできることを願っています。

大会出場踏破達成記念報告

愛知県ダンススポーツ連盟 伊藤 茂・千鶴

皆様は、日本全国47都道府県の地図は書けますでしょうか？

私たちは書けます。全ての県で競技会に出場しましたので、頭の中では各県がジグソーパズルの様に入っています。大きくて綺麗な会場！ 歴史ある小さな会場！ 良い成績を出した会場は鮮明に、それなりの成績のときはそれなりに、ピースごとに蘇って来ます。

同時にその県ごとに、観光も楽しみました。北海道の小樽・旭川・富良野、青森県の津軽海峡・下北半島、秋田県のなまはげ館、福島県の大内宿……島根県の石見銀山・水木しげるロード、大分県の別府温泉地獄めぐり、宮崎県の高千穂峡・モアイ像、鹿児島県の桜島周遊・指宿の砂風呂・枕崎漁港、沖縄県の美ら海水族館……。

またまた同時にグルメも楽しんで来ました。北海道の花咲蟹、青森県大間のマグロ丼、岩手県のわんこそば……福岡県のネギそば、熊本県の馬刺し、宮崎県の鶏の炭火焼……まだまだあります。ホテルでの朝食バイキングには何かしらその土地の名産品が並んでいて、それを食するのも楽しみの一つでした。

ダンス仲間との出会いも沢山ありました。誰も知っている人がいないだろうと思って気楽に参加した大会。でもオットドッコイ！ そこにも知り合いのカップルがいたのです。名前は不確かだが見覚えがあり、「こんにちは！」と挨拶をすると、「何処どここの会場で会いましたよね～」と話が始まり、また友達ゲット！

今年の8月に静岡県浜松大会で私たちの敬愛するY組に出会いました。Y組は来年90歳になられる選手ですが、この日の大会でスタンダード、ラテン共にC級決勝戦で活躍していました。75歳のときには大病でベッド生活を強いられていましたが、

ダンスを踊りたいとの一心で現役復帰されました。私たちの新たな目標はY組に“追い付け・追い越せ”です。

私たちにとって社交ダンスは、“楽しいもの（今）”“楽しかったもの（過去）”“楽しめるもの（未来）”をモットーに、生涯スポーツとしてこれからも精進していきたいと思います。

最後になりましたが、各県の大会でお世話になりました大会運営委員の皆様、有り難うございました。またお伺いする時もよろしくお願いいたします。

そして、林仲男・民子組と一緒に達成できたことを何よりも嬉しく思います。



京都大会にて



出雲大社



宮崎のモアイ像



2013年、林組と共にベルギーで開かれた「シニアⅢスタンダード世界選手権」に出場した伊藤組



2023 ジャーマンオープン観戦記

2023年8月8日～8月12日／ドイツ・シュトゥットガルト

JDSF国際部 堀ノ内基子

さらに盛大になったジャーマンオープン！

今年のジャーマンオープンダンスチャンピオンシップスは世界55か国より1750組が参戦！これは、パンデミック以前よりもさらに多い数となり多くの観客も殺到し、第35回ジャーマンオープンは盛大に開催されました。

今まで各国の中で出場組数が最も多かったロシアからの選手は今回もまだ参戦出来ず。そしてDance Sports Heritageを運営するイタリアのディアプロチームの参戦もない中で特筆すべきことと思われます。

競技区分は今年からソロ競技も加わりなんと60競技！そしてこの大会では約530人のボランティアが大会運営をサポートしています。

日本からも多くの選手が参戦！

●今年もシニア選手が活躍！

WDSFシニアⅣ スタンダード (出場組数105組)
今井 正幸 & 由香 組が大健闘で4位入賞！



GOCシニアⅤ スタンダード (出場組数20組)
林 伸男 & 林 民子 組が大健闘で4位入賞！



林組の応援にかけつけた
日本のシニア選手たち

今井組の応援にかけつけた
日本のシニア選手たち



今回のGOCシニアⅤスタンダードの年齢区分は、70歳／75歳でしたが、今年6月に開催されたWDSFの総会でシニアⅤスタンダードが正式競技となることが承認されましたので来年のジャーマンオープンではWDSFシニアⅤスタンダードになります。

WDSFシニアⅤスタンダードの年齢区分は、70歳／70歳。(その年の12/31までに70歳になればOKです)ますます日本のシニア選手のご活躍が楽しみです！



石川 誠一 & 美智子 組 (17位)



冬野 英和 & 朋子 組 (18位)

WDSFシニアⅢ スタンダード (出場組数240組)

今井 正幸 & 由香 組 (24位)
濱野 義弘 & 千鶴子 組 (56位)
冬野 英和 & 朋子 組 (85位)

WDSFシニアⅢラテン (出場組数58組)

坂本 弘文 & 純子 組 (9位)
国松 正尚 & 千絵 組 (12位)



濱野 義弘 & 千鶴子 組

WDSFシニアⅠラテン (出場組数58組)

押川 慧悟 & 和田 知世 組 (7位)
石田 茂之 & 矢野 美帆子 組 (24位)



押川 慧悟 & 和田 知世 組



石田 茂之 & 矢野 美帆子 組



ジャッジを務めた野上宏哉
JDSF-PD審判員と山田淳
JDSF副会長

●若手選手も活躍！



大西 大晶 & 咲葉 組



Tudor Andrei & 吉川 あみ 組



アマチュアWDSFグランドスラム

出場組数		大西 大晶 & 咲葉 組	TUDOR GABRIEL ANDREI & 吉川 あみ 組
スタンダード	(241組)	84位	69位
ラテン	(284組)	121位	出場なし
ライジングスタースタンダード	(179組)	29位	13位
ライジングスターラテン	(278組)	75位	14位

プロフェッショナル

WDSF PD スーパーグランプリスタンダード (出場組数40組)

Oleksii Guzyr & 太田 吏圭子 組	(13位)
壺内 康文 & 美和 組	(34-35位)
前田 雅仁 & 宮崎梢 組	(34-35位)
見元 克至 & 北畑 香織 組	(36位)



壺内 康文 & 美和 組



Oleksii Guzyr & 太田 吏圭子 組

豪華なショーで盛り上がるメイン会場！

ジャーマンオープンのショーはサプライズ満載です！したがってショーの時間は見逃せません！

今回はなんと昨年 WDSFグランドスラムスタンダードで優勝したEVALDAS SODEIKA & IEVA ZUKAUSKAITE(リトアニア)と、今回WDSFグランドスラムラテンで4連覇優勝のMARIUS-ANDREI BALAN & KHRYSTYNA MOSHENSKA(ドイツ)が夢の競演!! ボディーにピッタリのシンプルな衣装により一層ダイナミックな踊りを満喫出来て会場は拍手喝采！



EVALDAS SODEIKA & IEVA ZUKAUSKAITE 組

頑張ったウクライナのジュニア選手

今回注目すべきはウクライナからの選手の活躍です。困難の中勝ち取った優勝は喜びもひとしお！



ブレイキンのショーで盛り上がる！

来年のパリ2024オリンピックでブレイキンが正式種目となっていることからジャーマンオープンでもブレイキンのショーが盛り込まれ、会場は沸いていました。



来年のジャーマンオープン

2024年のジャーマンオープンの大会日程は8/13(火)～8/17(土)です。ちょうどパリ2024オリンピックのブレイキン競技日(8/9金・8/10土)の翌週になります！
どんなドラマが展開するか、とっても楽しみです！

必見!! 国別対抗 ユースのチームマッチ！

ジャーマンオープンでぜひ見ていただきたいのがユースのチームマッチ！ 出場組数がとっても多いジャーマンオープンだからこそ成せるイベントであることはもちろん、単に勝敗だけのためのイベントでないというオーガナイザー主旨をここに見ることが出来る！ 各国トップのユース選手(スタンダード2組&ラテン2組)による趣向を凝らしたパフォーマンスは必見！ 今年次は次の6か国が参戦。モルドヴァ・リトアニア・チェコ・ルーマニア・ブルガリア・ドイツ



ダンススポーツグランプリin仙台2023

スポーツくら



併催／2024年WDSF世界選手権日本代表選考競技戦

ラテン、シニアIスタンダード、ユーススタンダード&ラテン、WDSF-PDスタンダード

9月10日(日)／仙台市青葉体育館



仙台市は東北唯一の100万都市、伊達政宗に代表される武勇の地。衆議院議員から平成29年仙台市長にご就任され、男女ペアで競われる「ダンススポーツグランプリin仙台」の大会顧問を務める郡和子（こおりかずこ）市長を今年もお迎えし開催されました。郡市長は「スポーツの秋、芸術の秋、この杜の都・仙台において世界選手権という夢の舞台への出場を決める本大会、世界に向けて力強く飛躍されることを期待します」とご挨拶され、大会相談役の渡辺ひろし市議会議員と共に長時間に渡り観戦されました。

中道俊之（岩手県DS連盟会長）は「6月25日の総会で専務理事を務めることになりました。新ビジョンの推進にも尽力していきますので、よろしく!」と抱負を述べました。また、佐々木啓実行委員長（宮城県DS連盟会長）は「今年も郡市長をお迎えした本大会。アスリートたちの熱き戦いに、期待と声援を!」と開会宣言を行ないました。

競技は、グランプリは大西組、PDグランプリはオレクシー・太田組という日本を代表するペアが圧勝となりましたが、ブルボンDSTの今西組等、JDSFユース強化選手の活躍が目立ちました。



郡和子仙台市長
(大会顧問)



山口剛競技本部長と司会進行担当一同



ご来賓と役員
前列左から中道専務理事、郡市長、渡辺市議、伊藤県連名誉会長、
後列左から神宮広報部相談役、村上東北ブロック委員長



優勝

大西 大晶・大西 咲菜 組(富山県)



準優勝

海老原 拳人・タカギ ルナ 組(千葉県)



第3位

今西 竜矢・今西 心菜 組(ブルボンDST)



優勝

野口 雄一朗・奥野 亮子 組(東京都)



第6位



第5位

ホワイトン 謙心・ホワイトン 夏奈実 組(ブルボンDST)



第4位

高橋 海・榮岩 由莉那 組(千葉県)



準優勝

高杉 耕一・高杉 綾子 組(東京都)



第3位



小林 潤一・小林 麻衣 組(千葉県)

全日本選手権シニアIスタンダード



優勝

アレクシー グザー・太田 吏圭子 組
(リズメディア)



準優勝

久保田 弓椰・徳野 夏海 組
(TEAM YUMIYA 北海道)



第3位

山崎 圭太・山崎 美奈子 組
(エムズダンスアカデミー)



第4位

喜多田 芳起・喜多田 千代 組
(ザ・ゴールデンパレス大阪)

グランプリユース スタンダード



第5位

高橋 一昌・高橋 由紀子 組
(幸手K&Yダンスクラブ)



第6位

秋谷 孝宏・田原 美穂 組
(エムズダンスアカデミー)

JDSF A級戦 スタンダード



優勝

玉應 聖太郎・岡部 杏海 組
(DS アペル)

JDSF B級戦 スタンダード



JDSF C級戦 スタンダード



熊田 舜士・加藤 万貴 組
(東北大学)

JDSF D級戦 スタンダード



第3位

木下 将希・三喜 真梨菜 組
千葉県



優勝

中村 エドワード・中村 エリザベス永理 組
(ブルボンDST)

優勝

JDSF B級戦 ラテン



久我 孝正・久我 みき子 組
(せみねダンススポーツクラブ)



優勝

吉本 有秀・大西 夏鈴 組
(東北大学)

JDSF C級戦 ラテン



グランプリユース ラテン



シニアⅢ A級戦 スタンダード



JDSF D級戦 ラテン



第18回オールジャパン・ジュニア ダンススポーツカップ2023 in 高崎

7月29日(土)・30日(日)／高崎アリーナ

後援：スポーツ庁・(公財)日本スポーツ協会・(公財)日本オリンピック委員会・群馬県・群馬県教育委員会
協賛：株式会社ブルボン



JDSF 布村幸彦
会長の挨拶

ジュニアダンススポーツの祭典「オールジャパン・ジュニア」が7月29、30の両日、群馬県の高崎アリーナで開かれました。今大会には、全国から約450人が出場。注目の全日本ユース(16～18歳)では、スタンダード部門を双子ペアの中村組が、ラテンは高橋・榮岩組がそれぞれ昨年の2位から、うれしい初優勝を飾りました。文部科学大臣賞争奪のジュニア部門(12～15歳)では、スタンダードで地元・群馬県の茂呂・今村組が優勝。地元テレビや新聞社の取材を受けていました。一方のラテン部門は、長野県の南山・社本組が優勝しました。オールジャパン・ジュニアは、来年も高崎アリーナでの開催が決定しています。



全日本選手権 ユーススタンダード

優勝 中村エドワード漸・
中村エリザベス永理
ブルボンDST

- 2位 木下将希・三喜真梨菜
千葉県／ダンスチームみやおか
- 3位 高橋 海・榮岩由莉那
千葉県／ダンスチームみやおか
- 4位 ホワイトン謙心・
ホワイトン夏奈実
ブルボンDST
- 5位 小林才時・小西乙愛
長野県／塩尻 Jr.Y.アスリートクラブ
- 6位 原口佑弥・大西陽来里
富山県／ハッピー Happyクローバー

全日本選手権 ユースラテン

優勝 高橋 海・
榮岩由莉那
千葉県／ダンスチームみやおか

- 2位 今西竜矢・今西心菜
ブルボンDST
- 3位 ホワイトン謙心・
ホワイトン夏奈実
ブルボンDST
- 4位 濱田琉成・飛田 遥
栃木県／木嶋クラブ
- 5位 北島 蓮・竹内杏奈
Jr.A.C.／ユースアスリートクラブ
- 6位 小島獅桐・鈴木柚葉
群馬県／ハッピーダンスクラブ



文部科学大臣賞争奪 ジュニアスタンダード

優勝 茂呂駿舞・今村朱里
Jr.A.C.／ジュニア
アスリートクラブ

- 2位 足立拓海・打越聖愛
千葉県／ダンスチームみやおか
- 3位 藤枝大河・宮澤めぐ
埼玉県／ADSジュニア
- 4位 山下晴之・磯部 愛
Jr.A.C.／ジュニアアスリートクラブ
- 5位 吉岡栄太・田山逸果
東京都／ファミリアダンススポーツクラブ
- 6位 鈴木伶音・渡辺華凜
Jr.A.C.／ジュニアアスリートクラブ

文部科学大臣賞争奪 ジュニアラテン

優勝 南山雄大・社本実由
長野県／塩尻 Jr.Y.
アスリートクラブ

- 2位 原澤英大・竹之内梨音
Jr.A.C.／ジュニアアスリートクラブ
- 3位 藤枝大河・宮澤めぐ
埼玉県／ADSジュニア
- 4位 吉岡栄太・田山逸果
東京都／ファミリアダンススポーツクラブ
- 5位 足立拓海・黒嶋ひなの
千葉県／ダンスチームみやおか
- 6位 茂呂駿舞・今村朱里
Jr.A.C.／ジュニアアスリートクラブ





ジュブナイル スタンダード&ラテン

優勝 福原聖太・土屋海音 埼玉県／ADSジュニア

スタンダード

- 2位 藤枝修也・林 日和 埼玉県／ADSジュニア
 3位 渡邊詠仁・神戸 咲 山梨県／キラピーキッズ山梨
 4位 吉岡裕太・奥秋るか Jr.A.C.／ジュニアアスリートクラブ
 5位 水田悠斗・大塚千榮 京都府／京都ジュニアダンススポーツクラブ
 6位 高井隆之介・藤村 友 Jr.A.C.／ジュニアアスリートクラブ



ラテン

- 2位 藤枝修也・林 日和 埼玉県／ADSジュニア
 3位 高井隆之介・藤村 友 Jr.A.C.／ジュニアアスリートクラブ
 4位 水田悠斗・大塚千榮 京都府／京都ジュニアダンススポーツクラブ
 5位 金子祐大・関根乙央 栃木県／木嶋クラブ
 6位 吉岡裕太・奥秋るか Jr.A.C.／ジュニアアスリートクラブ



女子高校生 スタンダード

優勝 西嶋万葉・岩崎咲希 富山県

- 2位 田口莉彩・福原聖彩 埼玉県
 3位 後藤真歩・廣瀬笑里 富山県
 4位 馬場愛里・武田一華 新潟県
 5位 花寄真由・中桐愛乃 埼玉県
 6位 千葉優月・鈴木陽菜乃 埼玉県



女子高校生 ラテン

優勝 西嶋万葉・岩崎咲希 富山県

- 2位 後藤真歩・廣瀬笑里 富山県
 3位 馬場愛里・武田一華 新潟県
 4位 福原聖彩・田口莉彩 埼玉県
 5位 千葉優月・鈴木陽菜乃 埼玉県
 6位 北浦佳奈・壽川蘭子 埼玉県



女子中学生 スタンダード&ラテン

優勝 伊木心晴・高瀬 遥 山梨県

スタンダード

- 2位 橋本華花・新井日菜 埼玉県
 3位 足立結菜・松田凜星 茨城県
 4位 花寄真由・渡邊菜凪 埼玉県
 5位 北浦佳奈・前山 楓 埼玉県
 6位 金田香織・杉原さくら 富山県



ラテン

- 2位 足立結菜・松田凜星 茨城県
 3位 橋本華花・新井日菜 埼玉県
 4位 金田香織・杉原さくら 富山県
 5位 菅原亜衣菜・横沢優羽 北海道
 6位 石森みあ・齋藤 心 新潟県
 7位 内海由紀・閻 格 Jr.A.C.



小学生4～6年 スタンダード

優勝 児山遥都・金子 葵 栃木県

- 2位 足立博海・加藤向葵 千葉県
 3位 斉藤有音・柴田莉奈 千葉県
 4位 足立結月・松田凜空 茨城県
 5位 堀越万結・吉崎空乃 神奈川県
 6位 宮本織駕・大野世莉 茨城県
 7位 藤原百花・三澤空姫 長野県



小学生4～6年 ラテン

優勝 斉藤有音・柴田莉奈 千葉県

- 2位 児山遥都・金子 葵 栃木県
 3位 吉崎空乃・堀越万結 神奈川県
 4位 張 幸一・前川美桜 Jr.A.C.
 5位 藤原百花・三澤空姫 長野県
 6位 足立博海・加藤向葵 千葉県



小学生1～3年 スタンダード

優勝 栗原梨央・熊谷奈々 茨城県

- 2位 藤本 歩・今城雨翰 茨城県
 3位 神戸 晴・奥山絹子 山梨県
 4位 藤枝良守・有川緋音 埼玉県
 5位 浜田唯衣・大野紡季 茨城県
 6位 石井惺一郎・石井 董 茨城県



小学生1～3年 ラテン

優勝 栗原梨央・熊谷奈々 茨城県

- 2位 神戸 晴・奥山絹子 山梨県
 3位 藤枝良守・有川緋音 埼玉県
 4位 藤本 歩・今城雨翰 茨城県
 5位 史 昊陽・張 美佳 Jr.A.C.
 6位 朱 明浩・ボウ涵菲 Jr.A.C.



ベスト
マナー賞



中国杭州 第19回アジア競技大会



JDSFブレイクダンス本部選手強化部長
渡邊 将広(JOCナショナルコーチ)



世界ダンススポーツ連盟(WDSF:当時IDSF)は1997年、IOC(国際オリンピック委員会:当時サマランチ会長)のダンス競技を統括する競技団体として正式に承認され、オリンピック競技種目の一つに加わりました。

アジア競技大会は、アジア版オリンピックとも言われる国際総合競技大会で原則4年ごとに開催されます。2010年の第16回中国広州大会において、選手役員総勢1,078名の史上最多の選手団を率いた団長は、市原則之JOC専務理事(JDSF理事、現副会長)が務め、ダンススポーツは初の正式競技として実施されました。ワルツ、タンゴやルンバ、サンバなどの単科戦8種目と5種目総合2種目の合計10種目で競いましたが、全て演技順が最後だった中国が10個の金メダルを独占(日本は銀3、銅4)。第17回(2014年韓国仁川)、第18回(2018年ジャカルタ)ではダンス競技は行なわれませんでした。第19回中国杭州大会は45か国・地域から約1万2千人の選手が参加、東京オリンピックの33競技を上回る40競技481種目が開催され、ダンススポーツ競技ブレイキン(ブレイクダンス)は男子・女子が正式競技種目として実施されました。次回のアジア競技大会は、2026年に愛知県と名古屋市の共催で開かれます。

(広報部相談役 神宮周二)

結団式

9月15日(金)、グランドプリンスホテル新高輪「飛天の間」において、秋篠宮皇嗣同妃両殿下ご臨席の下、TEAM JAPANの結団式が行われ、選手監督コーチの総勢1,137名のうち、約720が参加しました。



結団式に臨む布村幸彦JDSF会長とブレイキン選手団

チームジャパン 日本代表選手 & 役員

〈選手〉

SHIGEKIX (半井重幸)
ISSIN (菱川一心)
AMI (湯浅亜実)
AYUMI (福島あゆみ)

〈オフィシャル〉

KATSU ONE (石川勝之)
NARUMI (福島梨絵)

〈監督〉

MARROCK (渡邊将広)

〈強化サポート〉

情報戦略 安倍晴日

トレーナー 伊佐和敏

〈マーケティングサポート〉

千野秀行



TEAM JAPAN一同



マスコット人形と記念撮影



街はアジア大会一色



4名の日本代表選手

ダンススポーツ-ブレイキン SHIGEKIX (半井重幸) 金メダル獲得! パリ五輪出場決定! 歴史的な快挙!

10月6日(金)・7日(土)に開催されたブレイキン初日は、15秒で4000枚のチケットが完売し、最も人気のある競技となり予選ラウンドから超満員。観客席では発光スティックが振られ、熱狂的な歓声に包まれました。

男子はSHIGEKIXが常に重要視しているという「ミュージカリティ」を武器に、バリエーション豊富なトップロックからムーブを組み立て、真骨頂であるスピード感のあるパワームーブや、キレのあるフリーズなども音楽に合わせて展開。一気に決勝戦の雰囲気を作り上げ、ライバルのHong10(韓国)を破り見事金メダルを獲得! パリオリンピックへの出場権を獲得する快挙を達成しました。



男子表彰式



金メダル決定の一瞬 左:NARUMI(福島梨絵)、中央:KATSU ONE(石川勝之)、右:ISSIN(菱川一心)もSHIGEKIXに駆け寄り、日本のB-BOYでは初となるパリ五輪出場の快挙を称えた。

男子結果

優勝: SHIGEKIX (半井 重幸: 日本 神奈川県)
第2位: Hong10 (韓国)
第3位: Lithe-ing (中国)
第4位: ISSIN (菱川一心: 日本 岡山県)

女子結果

優勝：671（中国）

第2位：AMI（湯浅亜実：
日本 神奈川県）

第3位：AYUMI（福島あゆみ：
日本 京都府）



女子表彰式

女子の決勝は日本のAMIと中国の671の対決。両者は様々な世界大会での決勝で対戦経験があり、まさに因縁の対決。さらに現時点の世界ランクが1位（AMI）と2位（671）でもあり、事実上の世界の頂点を決める対決となりました。結果は惜しくもAMIが銀メダル、AYUMIは3位決定戦で勝利し銅メダルを獲得。女子の2名は来年の4月～6月に開催される、OLYMPIC QUALIFIER SERIES EVENT (OQS)に出場し、パリオリンピックへの出場権獲得を目指すことになりました。今回、男子4位となったISSINもOQSポイントによる選抜枠を利用し、OQSからのパリオリンピック出場権獲得を目指す形となります。

石川勝之

（JDSF理事ブレイクダンス本部長）

世界大会の連戦続きで選手たちはとても疲れていたと思います。その中でも毎回大会に向けてコンディショニングを常に心がけ、しっかり準備をしている選手たちの努力には驚かされます。彼らは私たちが想像する以上の次元で戦っており、その中でのこの結果は非常に嬉しく、誇りに思います。来年のOQSの大会では、残りのパリ五輪出場を賭けた非常にレベルの高い大会となることが予想されますが、出場枠を獲得できると信じています。パリ五輪に向けての旅はまだ続きますが、引き続き応援をよろしく願い致します。



金メダル獲得

パリ五輪の切符を手に入れた
SHIGEKIX（半井重幸）選手

今大会の優勝については、大会のレベルが世界でもトップクラスだったので、優勝できたことは素直にうれしく、また、この優勝が初の "ASIAN GAMES BREAKING Champion" となったこともうれしい。パリ五輪への出場については、数年続けてきたROAD TO PARIS（パリオリンピック2024への道）での経験が、今回の結果に繋がったと思います。さらに、今回までの成長を実感できるよう、残りのROAD TO PARISの旅を楽しみながら、頑張りたいと思います。



閉会式で 旗手を務める SHIGEKIX

ブレイキン男子金メダルに輝いた半井重幸選手は、16日にわたったスポーツの祭典、第19回アジア競技大会最終日の閉会式に日本選手団の旗手に抜擢され、堂々と日の丸を掲げ、入場行進を行ないました。



10月9日（月）日本経済新聞朝刊

協力：ブレイクダンス本部PRパートナー FINEPLAY



「第1回静岡県 ブレイクダンス選手権大会」

8月12日（土）／グランシップ交流ホール（静岡市）
主催：静岡県ダンススポーツ連盟ブレイクダンス部

金子 和裕

静岡県ダンススポーツ連盟会長
（JDSF常務理事）



静岡県DS連盟では昨年ブレイクダンス部を組織し、部長には元ブレイクダンス世界チャンピオンの唐澤剛史氏が就任。県内のブレイキン会員の組織化、国体・オリンピックに向けた選手の発掘育成及び普及を目的に活動を進め、来年のパリ・オリンピック後を見据えブレイキンファンやブレイキンをやってみたいという子供たちの受け皿になれるように第1回静岡県ブレイクダンス選手権を開催しました。エントリーも少なく心配されましたが、直前になって選手が集まりキッズ部門16名、アダルト部門16名の計32名のエントリーによりバトル形式で行なわれ、熱気に溢れる大会になりました。

優勝は、キッズ部門：B-girl AO（あお）

アダルト部門：B-boy YAKEN THE ROC
（やけんざろっく）



中央が唐澤剛史県ブレイクダンス部長、右から3人目が溝口稔JDSFジュニア育成部長

環境を守る スポーツを守る 未来を守る TEAM JAPAN!

来たときよりもきれいに！



公益財団法人日本オリンピック委員会
Japanese Olympic Committee

ダンス・ダンス・ダンス

第109号 (Autumn)

令和5年11月発行

■ 発行人／山田 淳 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟副会長)
■ 編集人／神宮周二 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部相談役)
■ 企 画／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部
■ 発行所／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階 TEL.03-6457-1850 FAX.03-6457-1857
<https://www.jdsf.or.jp>

©本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。